

令和元年度第2回次世代育成支援対策千葉県協議会 質疑(持ち帰り分)に係る回答

○子どもの相対的貧困率の推移のグラフについて

[小山構成員] (議事録要旨8頁)

資料5の2枚目、子どもの相対的貧困率の推移(全国)というグラフについて、全体が青いラインで、2015年、少し下がっているが、オレンジ色の子どもの貧困率が非常に大きな数字で下がっている。これはどのような経緯で、全体が少し下がっているのに子どもの貧困率は大きく下がったのか。子どものいる世帯への収入が増えて、結局貧困率が下がったのか、その辺も含めて少し教えて欲しい。

[健康福祉指導課]

厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課に確認したところ、国としても、子どもの貧困率が大きく低下した明確な理由は不明だが、子育て世代の世帯主に若年層が多い中、若年層の雇用環境の改善、最低賃金の上昇などが原因として考えられるとのことであった。

なお、全国消費実態調査(平成26年)によれば、総世帯における世帯主が30歳未満である世帯(子ども有無に関わらず)の相対的貧困率が平成21年と比較して3.6%減(15.6%→12.0%)と大きく低下しており、全体として若年層の相対的貧困率が改善している状況である。

表Ⅱ-1 相対的貧困率の推移(総世帯)

	1999年	2004年	2009年	2014年
	(平成11年)	(16年)	(21年)	(26年)
相対的貧困率	9.1	9.5	10.1	9.9
世帯主の年齢階級別				
30歳未満	15.2	15.7	15.6	12.0
30~49歳	7.1	7.2	7.7	6.6
50~64歳	7.7	8.4	9.6	9.5
65歳以上	15.0	14.1	13.7	13.6
世帯類型別				
単身	21.5	19.6	21.6	21.0
大人1人と子供	62.7	59.0	62.0	47.7
2人以上の大人のみ	7.2	7.9	8.3	8.9
大人2人以上と子供	7.5	7.8	7.5	6.6
中央値	万円 312	万円 290	万円 270	万円 263
貧困線(中央値÷2)	156	145	135	132

出典：平成26年全国消費実態調査